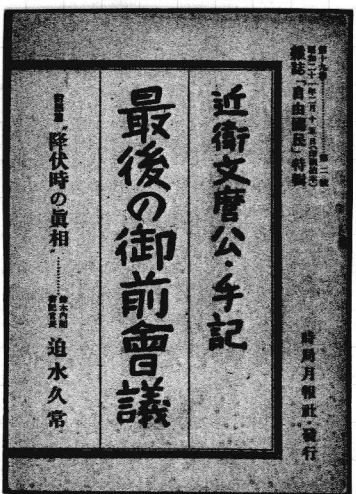


近衛文麿 （政治家） 政治家。明治二十四年十月十一日東京生れ、昭和二十一年十一月十六日没（二九二一九四五）。近衛篤磨の長男。大正五年貴族院議員、七年京都市帝國大學法科大學政治學科卒。昭和八年貴族院議長、一〇・一〇・二〇事件直後組閣の大命を受け、十一一年近衛内閣發足。十四年樞密院議長。翌年新體制運動を組織して第一内閣組閣、大政翼賛會を設けて二國同盟を締結。十六年二月第一二次組閣と十月總辭職。戦後戦犯容疑指名を受け服毒自殺。號虎山。

著書『上院と政治』（大正十三年十一月）『二十五日日本讀書協會事務所所』（『貴族院改革と現行制度の運用』（昭和二年十一月）『二十一日民友社』『國民パンフレット』（『支那國の識者公望』（岡部長景友社）『支那國の同志公望』（岡部長景友社）『支那國の同志公望』（岡部長景友社）『支那國の同志公望』（岡部長景友社）

合著、昭和十一年四月十五日東京同文會、『名士縱橫談』（合著・淵田忠良編、昭和十五年八月十日大日本雄辯會講談社）『キング文庫』（『武士道の精神』（合著・武士道學會編、昭和十六年十一月十一日帝國書籍協會）、主記「最後の御前會議」對照篇、降伏時の真相、追水久常』（昭和二十一年一月）『二十日時局月報社』『自由國民』第十九卷第一號・特輯）、同『平松への努力』（昭和二十一年四月一日日本電報通信社）、同『矢はれ』（政治』（昭和二十一年五月十五日朝日新聞社）、『近衛日記』（共同通信社）『近衛日記』編集委員會編、昭和四十二年二月二十日共同通信社開發局）等。



文獻、福岡醇祐編著『非常時局のたゞし近衛公』（昭和十一年十月五日東京閣）、高坂沐溪著『近衛公の懋』（昭和十五年十一月十五日東

- 京教育出版社)、白柳秀湖著『近衛家及び近衛公』(昭和十六年八月  
十五日富山房)、馬場恒吾著『近衛内閣史論―戦争開始の真相』(昭  
和二十一年一月十五日高山書院)、木倉幾二郎著『近衛公秘傳』(昭  
和二十五年一月二十日朝歌山・高野山出版社)、上野信之作『公爵近  
衛文麿』(昭和二十五年十二月二十日大日本雄弁会講談社)、風見章  
著『近衛内閣』(昭和二十六年七月二十日日本出版協同株式會社)、  
矢部貞治著『近衛文麿』(昭和二十二年六月一日時事通信社)、「三代幸  
相列伝」(、岡田丈夫著『近衛文麿―天皇と軍部と国民』(昭和二十  
四年五月二十日春秋社)、岡義武著『近衛文麿―「運命」の政治家』  
(昭和四十七年六月二十日岩波書店)、「岩波新書」(等)。